

第 171 号 内容紹介

1、 盧倩儀「台湾人は台湾有事なんて起こさない」

昨年 3 月、台湾の有識者 37 人が発表した「台湾反戦声明」。3 人の起草者が日本 AALA と日中友好協会共催のオンラインシンポ「台湾の反戦平和勢力と交流する会」に参加。報告者の盧倩儀さんの発言全文。

2、 大西広「基地建設を推し進める資本主義の貧困問題」

軍事基地(や原発)の建設が地方の「貧困」を条件として推し進められている。平和の問題(や原発の問題)は経済の問題、貧困の問題と不可分であり、貧困を作り出すことが建設を可能にしている。

3、 J・ペリー「LA が払うジェノサイド非難の代償」

ラテンアメリカの政府は、イスラエルによるガザでの大量虐殺非難の最前線に立ってきたが、そうした諸国では、突如としてクーデター未遂を含む新たな脅威に直面している。ニカラグアからの告発。

4、 M・イブラヒム「トランプとハリスを超えて」

トランプの「米国第一主義」もハリスの「ソフト外交」も同じ帝国主義の柱だ。どちらにせよアフリカに求められるのは自立と脱植民地化にむけた努力だ。在南アの「アフリカ・レガシー財団」事務局長の論文。

5、 ラ・ホルナダ「トランプには敬意とともに毅然として」

超大国アメリカの足元、メキシコ左派系新聞の社説。自国の主権の防衛、対等な関係が二国間関係で譲れない条件であることを強く伝えれば伝えるほど、トランプによる脅迫のリスクは低くなると強調。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala_news](#) の編集日記 ([livedoona 愛用紹介 r.jp](#)))